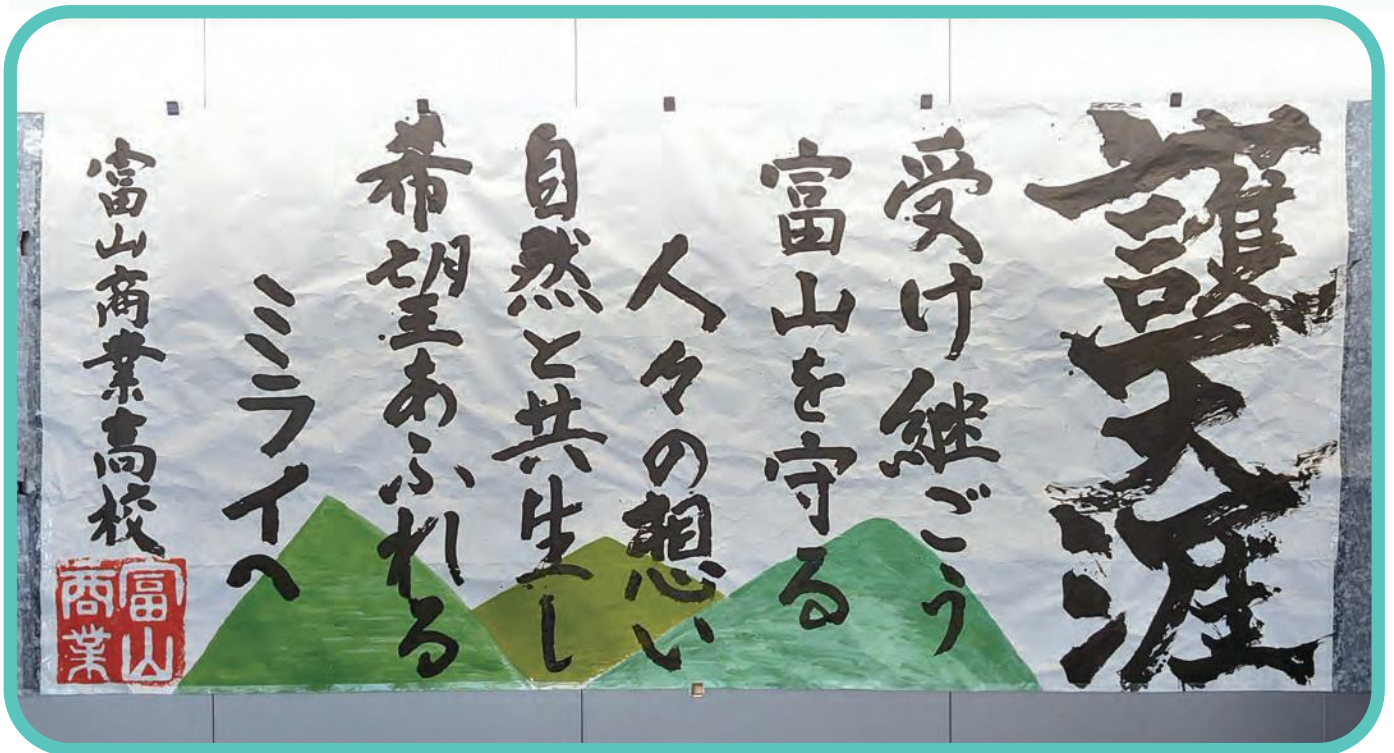


とやまの砂防

第77号

令和6年2月14日
発行



CONTENTS

「護天涯（てんがいをまもる）」（富山商業高校書道部）	1
立山砂防国際シンポジウム	2
立山砂防の世界文化遺産登録に向けた世界への情報発信（イコモス総会等）	3
国際協力：コソボ共和国・モンテネグロ国技術職員への斜面災害対策研修	3
令和5年の土砂災害、令和6年能登半島地震による土砂災害	4
南砺市砂子谷地内の災害復旧事業の支援について	4
土砂災害警戒避難に関する市町向け勉強会の開催	4
令和5年度 砂防関係事業の9月、11月補正予算	5
5か年加速化対策 完成施設	5
おらっちゃんの砂防 上市町の砂防事業について	6
土木センター、事務所紹介（立山土木事務所）	6
後進に告ぐ	7
県治水砂防協会「通常総会」の開催	8
県治水砂防協会「研修会（立山砂防現地研修会等）」の開催	8
「全国治水砂防促進大会」の開催	8
富山県議会砂防事業促進議員連盟の活動	9
全国治水砂防協会静岡県支部の富山県内砂防事業の視察	9
砂防関係団体に知事感謝状が授与	9
出前県庁しごと談義（富山北部高校）の開催	10
富山県総合防災訓練及び市町総合防災訓練への参加	10
「防災講演会 in 黒部市」の開催	10
開館25周年「立山カルデラ砂防博物館」	11
がけ地近接等危険住宅移転事業の紹介	11
砂防関係活動広報・報道等実績一覧（R5.4～12）	11
立山カルデラ砂防博物館ニュース	12

写真の解説

「護天涯（てんがいをまもる）」 （富山商業高校書道部）

【天涯】には、「故郷を遠く離れた土地」、「きわめて遠いところ」、また、「空のはて」という意味があります。

【護天涯（てんがいをまもる）】という、この言葉には、人里から遠く離れた山間の地において砂防事業をおこない、土砂流出による被害から下流に広がる富山平野の県民の命と財産を護るといった気概が示されています。現在、立山カルデラ内部の泥谷第1号堰堤には、大正4年（1915年）頃、当時の富山県知事であった、第14代富山県知事・浜田恒之助氏により揮毫されたものと言われる、「護天涯」の文字が刻まれた碑が埋め込まれています。

上記の写真は、令和5年9月30日（土）に、富山駅イベントスペースで開催された「ミライを体感！けんせつ×テックフェス2023」で披露された、富山商業高校書道部の書道パフォーマンスによる作品です。現在、富山県防災危機管理センター1階（富山市新総曲輪1番7号）に展示されています。



書道パフォーマンスの様子

立山砂防国際シンポジウム 開催概要

—日本固有の防災遺産 立山砂防の防災システムを世界遺産に—

1 開催趣旨

富山県は、関係機関や民間団体等と連携協力しながら、日本イコモス国内委員会によって「日本の20世紀遺産20選」に選出された富山県が世界に誇る防災遺産である、立山砂防の歴史的砂防施設群の世界文化遺産登録を目指しています。

本シンポジウムでは、世界遺産に関わる国内外の有識者による講演やパネルディスカッションをとおして、立山砂防の価値と魅力を広く発信するとともに、世界文化遺産登録に向けた課題や今後求められる取組みについて探りました。

2 概要

- (1) 日時 令和5年10月21日(土) 13:30~17:00
 (2) 会場 富山国際会議場メインホール(富山市大手町1-2)
 (3) 参加者 約500名(会場参加220名、オンライン参加280名)
 (4) プログラム

13:30~	挨拶 開会挨拶 新田 八朗 富山県知事 来賓挨拶 国土交通省水管理・国土保全局砂防部長 草野 慎一 氏
13:45~14:45	基調講演 「日本の世界遺産の動向～資産形成と推薦へのアプローチ～」 筑波大学大学院准教授 下田 一太 氏
14:45~15:00	報告 「富山県の立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組み」
15:15~	パネルディスカッション コーディネーター 西村 幸夫氏(日本イコモス国内委員会顧問) パネリスト 松浦晃一郎氏(第8代ユネスコ事務局長) 呂 舟氏(中国・清華大学 国家遺産センター長) 下田 一太氏(筑波大学大学院准教授) 姜 東辰氏(韓国・慶星大学校都市工学科教授)

- (5) 主催 富山県世界遺産登録推進事業実行委員会
 (事務局:富山県地方創生局観光振興室、土木部砂防課、教育委員会生涯学習・文化財室)



開会挨拶(新田知事)



来賓挨拶(草野砂防部長)



パネルディスカッション



会場の様子

パネルディスカッションでの主なコメント



姜 東辰 氏(韓国・慶星大学校都市工学科教授)
 自然災害の克服を目指した近代土木技術の集合体で、世界的にも希少性があると思います。自然災害に対処した類似の事例を研究することで世界的な価値をさらに強く訴えることができるでしょう。また、人に注目することでも価値は明らかになりますから、白岩堰堤を計画した赤木正雄氏の業績や、建設に携わった地域の人々についての調査研究は行われるべきです。気候変動に備えて持続可能なシステムであるかどうかの検証は必要で、稼働資産である立山砂防ならではの価値を示すことにもつなげられます。



呂 舟 氏(中国・清華大学 国家遺産センター長)
 人が自然災害にどのように立ち向かってきたのかを伝える立山砂防のような世界遺産は見当たりません。20世紀は人と自然との関係性が変わったという観点から、厳しい自然環境に対して人類の技術とパワーを示した「傑作」と言うこともできるでしょう。
 人と自然の境界をつくるのが文化ですが、立山砂防は堰堤が自然に溶け込んで新しい景観を生んでいます。多くの人々が共感できるように情報発信に努めてください。



松浦 晃一郎 氏(第8代ユネスコ事務局長)
 「SABO」は国際語にもなっており、アジアの国々は日本の砂防技術を学んで洪水対策に役立てています。立山砂防の世界遺産登録によって、砂防という災害対応のあり方や、他の同じような問題に対して助言ができることになるでしょう。



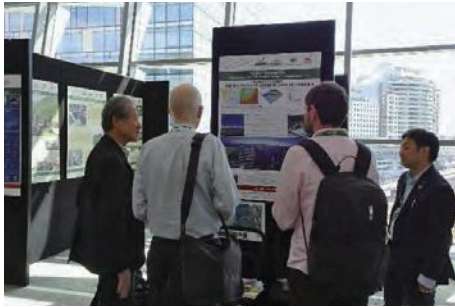
下田 一太 氏(筑波大学大学院准教授)
 砂防の調査研究をさらに深めていくことが最も重要です。そのためには世界遺産登録を目指す活動の中心となるチームづくりが必要です。立山砂防を愛する人や専門家がチームに参加し、登録後も遺産の有効活用に協力していくのが望ましいかたちです。



西村 幸夫 氏(日本イコモス国内委員会顧問)
 立山砂防に対する高い評価を聞き、心強い応援をいただいた思いがします。指摘された課題を一つ一つクリアしながら前に進めていっていただきたいと思います。

立山砂防の世界文化遺産登録に向けた世界への情報発信

令和5年9月3～7日にオーストラリア・シドニーで開催された国際イコモス総会（参加者：世界各国から約1500名）に参加し、西村幸夫先生（日本イコモス国内委員会顧問、國學院大學教授）にご協力頂き、立山砂防の顕著な世界的な価値についてポスター発表を行いました（写真）。多くの参加者に「立山砂防の水系一貫の防災システム」をPRし、「防災遺産」として世界文化遺産登録に向け取り組んでいることについて、世界各国の世界遺産の専門家の方に知って頂くことができました。総会参加者からは、熱心な質問があり、①立山砂防が富山平野を土砂災害から保全していること、②防災遺産としての他の世界遺産に無い独自性があること、③砂防施設の整備によって植生の回復していること等について、高く評価して頂き、また、立山砂防に強く関心を持って頂くことができました。この他にも砂防課ではTateyama Sabo Newsletter 2023（英文）をホームページに掲載し、立山砂防の世界文化遺産登録に向けた富山県の最近の取組を世界に向け情報発信しています。



西村先生・林参事によるポスター発表



立山砂防のVR動画をを用いた説明

国際協力：コンボ共和国・モンテネグロ国技術職員への斜面災害対策研修

令和5年10月12日(木)にコンボ共和国及びモンテネグロ国の技術職員それぞれ3名の計6名に、富山県の斜面災害対策を紹介する研修を実施しました。

本研修はJICAによる国際協力事業の一環で、日本の斜面災害対策を両国の技術職員が現地学習するものです。山岳・丘陵地帯に位置する両国では、雪崩等の斜面災害が近年増加しており、対策技術の向上が課題となっています。

座学及び雪崩対策事業（減勢工）南砺市大島地内の現場視察を行ったところ、納得するまで質問をされたり、熱心に写真を撮られたりと真剣に学んでおられました。

研修の様子は北日本新聞、富山新聞に取り上げられました。



座学の様子
（講師：砂防課山下主幹）



現場視察の様子①



現場視察の様子②



現場視察の様子③

令和5年の土砂災害、令和6年能登半島地震による土砂災害

令和5年、県内では12件（うち6/28の豪雨2件：写真1、7/12～13の豪雨3件：写真2）の土砂災害が発生しました。6月から7月にかけての豪雨による土砂災害への対応、砂防関係施設の効果等の詳細は「とやまの砂防 第76号別冊」などの砂防課ホームページに掲載の情報をご覧ください。

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により県内では最大震度5強を観測し、1月26日現在で13件の土砂災害の発生が確認されています（写真3）。震度5強を観測した地域（富山市平地、高岡市、氷見市、小矢部市、射水市、南砺市）では、土砂災害警戒情報の発表基準について、地震直後から通常基準より引き下げた暫定基準（通常基準の8割）を設けて運用しています。今後も被災した市町とも連携し迅速な対応を進めてまいります。



写真1：立山町中谷川での土石流



写真2：南砺市砂子谷地区でのがけ崩れ（死者1名）



写真3：氷見市園地区でのがけ崩れ

南砺市砂子谷地内の災害復旧事業の支援について

令和5年7月12日に南砺市^{すなごたに}砂子谷地内で発生した土砂災害については、発災直後は地すべり対策も検討されましたが、現地調査の結果、斜面崩壊であること、被災した待受擁壁が旧福光町により整備された急傾斜地崩壊対策施設であることから、南砺市の公共土木施設災害復旧事業として取り組むこととなりました。

しかし、南砺市では急傾斜地崩壊対策施設の災害復旧事業の前例がなかったため、県がさまざまな制度、枠組みによる支援を行いました。

具体的には、富山県内で初めてとなる災害復旧専門家派遣制度の活用により、専門家から復旧に向けた適切な助言をいただくことができました。また、復旧工法の検討会議に砂防課、砺波土木センターの職員が出席しました。さらに、国土交通省防災課、北陸財務局との事前協議も砂防課が対応するなど、できる限りの協力を行いました。

査定については、申請者である南砺市の適切な説明により、10月20日に申請通りの採択となりました。今後、復旧工事が本格的に進みますが、まずは災害復旧事業採択に尽力いただきました関係各位に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

土砂災害警戒避難に関する市町向け勉強会の開催

令和5年8月29日（火）に富山県砂防課、富山地方气象台主催による市町防災担当者及び建設担当者を対象とした「土砂災害警戒避難に関する市町勉強会」を開催しました。

市町職員28名、県土木部職員10名が参加し、6月28日及び7月12日～13日の大雨についての気象概況及び被害状況の振り返り、県で運用している土砂災害警戒情報支援システムの活用方法、警戒避難についての意見交換を行いました。意見交換では市町職員から、住民避難の実情や現在の警戒情報伝達体制に対する改善要望等の発言がありました。

迅速な住民避難や安全確保のため、今後も市町と連携してソフト対策に取り組んでまいります。



令和5年度 砂防関係事業の9月、11月補正予算について

9月補正予算

本年6月から7月にかけての豪雨災害を受けて、9月補正予算では災害復旧費として6億4,900万円を計上するとともに、県単独事業で災害の未然防止対策としての砂防河川の浚渫や伐木、施設修繕費、市が実施する小規模急傾斜地崩壊対策事業費などに、計5億6,770万円を計上しました。

11月補正予算

11月29日に国の補正予算成立を受け、県では速やかに11月補正予算の追加提案を行い、砂防関係事業では一般公共事業で11億1,115万円、直轄事業負担金で6億円を計上しました。

両補正予算を活用し、被災箇所の復旧と土砂災害の未然防止対策を推進し、県民の安全・安心な暮らしを守る取組みをスピード感をもって進めてまいります。

(単位:千円)

区分	R5当初予算	9月補正	11月補正	11月現計	備考
一般公共事業 (災害含む)	4,267,000	649,000	1,114,540	6,030,540	補助事業、交付金事業、 災害復旧事業
主要県単事業	442,000	567,700	0	1,009,700	砂防改良、砂防維持修繕 小規模急傾斜補助
直轄砂防事業負担金	1,650,000	114,162	600,000	2,364,162	常願寺川水系、黒部川水系 神通川水系直轄砂防
合計 (直轄負担金除く)	6,359,000 (4,709,000)	1,330,862 (1,216,700)	1,714,540 (1,114,540)	9,404,402 (7,040,240)	

主要事業

- (1) 砂防災害復旧事業【9月補正】 小矢部川水系谷内川【高岡市】ほか 15箇所
- (2) 砂防総合交付金事業及び砂防関係施設整備事業による土砂災害防止施設の整備【11月補正】
 - 砂防事業 小矢部川水系池川【南砺市】ほか 29箇所
 - 地すべり対策事業 青根地区【富山市】ほか 9箇所
 - 急傾斜地崩壊対策事業 本江(2)地区【滑川市】ほか 2箇所
- (3) 県単独砂防維持修繕事業(災害未然防止対策)【9月補正】
 - 白岩川水系中谷川【立山町】 被災箇所における次期出水対策(土石流捕捉工) ほか
 - 砂子谷地区【南砺市】 市が実施する小規模急傾斜地崩壊対策事業への補助

5か年加速化対策 完成施設

富山県では、気候変動に伴い激甚化・頻発化する気象災害や、切迫する大規模地震から県民の安全・安心を確保するため、富山県国土強靱化地域計画を策定し、土砂災害対策として砂防関係事業の推進を計画的に進めています。ここでは、令和2年度に閣議決定された国の防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策関係予算を活用して完成した施設の事例(土石流・流木対策施設、急傾斜地崩壊防止施設、雪崩防止施設)を紹介します。

小矢部川水系蓑谷 土石流・流木対策施設
(南砺市蓑谷地内)



整備前



完成

栃津地区 急傾斜地崩壊防止施設
(立山町栃津地内)



整備前



完成

上ヶ島地区 雪崩防止施設
(富山市八尾町上ヶ島)



整備前

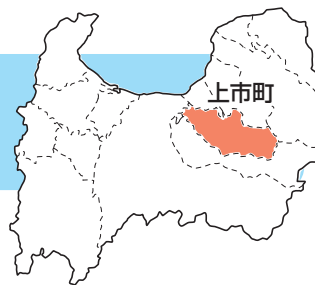


完成



上市町土砂災害ハザードマップ更新について

上市町建設課 榊原 宗哉



上市町は、富山市の以東約15kmに位置し、面積は236.8km²の町であり、古くから物資流通の中心地として、現在は、米作を中心とした農業と、繊維・薬品・精密部品などの製造業を中心とする工業とが調和された、緑豊かな田園工業都市です。

本町の「土砂災害ハザードマップ」につきましては、平成19年にGISを活用し、富山県立山土木事務所の協力を得て、作成しました。その後、平成27年1月18日に施行された「改正土砂災害防止法」を受け、内容の更新を行っております。

令和2年には避難施設や、警戒レベル情報の追加のほか、より見やすく、わかりやすさを意識したりリニューアルを行ったことで、改めて住民の皆様が、日頃からの防災に対する心構えをしっかりと持ち、一人ひとりの防災力を高めることにつながればと期待しております。また、町のホームページ上でも閲覧できるようにし、土砂災害に関する普及啓発に努めております。

今後も、「土砂災害ハザードマップ」が避難時に有効に活用されるよう、必要に応じて情報の更新や提供を行うとともに

に、砂防事業を推進していくことで、住民の命とくらしを守るまちづくりの実現に取り組んでいきたいと考えております。



土砂災害ハザードマップ

土木センター・事務所紹介 富山土木センター立山土木事務所の砂防事業

富山土木センター立山土木事務所が所管する富山市水橋地区、上市町、立山町、舟橋村は、立山連峰から富山湾までの標高差約3千メートルのダイナミックで変化に富んだ地形を有しています。管内には、土石流の危険箇所が130箇所、地すべりの危険箇所が36箇所、がけ崩れの危険箇所が118箇所あり、これら危険箇所への対策として各種事業を実施しており、現在、砂防事業では常願寺川、白岩川水系において堰堤工など6箇所、地すべり事業では地下水排除工など1箇所のほか、既存施設の長寿命化対策に取り組んでいます。



常願寺川水系雑穀谷13号堰堤

このうち雑穀谷は、わが国屈指の荒廃河川である常願寺川の支流であり、立山連峰の麓、大日平を源とする平均渓床勾配が1/5の渓流です。また、下流には、落差日本一で国内有数の観光スポットである「称名滝」へのアクセスルートが架かっています。雑穀谷の山腹や渓床には、不安定な土砂が多量に堆積し、荒廃が進んでいることから、昭和27年度より砂防施設の整備を進めており、令和4年度には13号堰堤が完成し、現在まで堰堤13基、床固3基を整備しました。

引き続き、14-1号堰堤の工事に着手することとしています。

6月28日及び7月12～13日の豪雨により、白岩川水系を中心に、河川堤防が決壊するなど甚大な被害が発生しました。この中で立山町谷地内の中谷川において土石流が発生し、溪流保全工のみならず人家も損壊する被害が発生しました。溪流上流部には多くの土砂や流木が堆積するとともに、流域が著しく荒廃しているため、今後の豪雨等により再び土石流が発生することが懸念されることから、溪流保全工の復旧のほか、新たに砂防堰堤の設置を検討しています。



今回、身近なところでも土砂災害が発生し、県民の関心も高まる中、今後も、土砂災害から人命や財産を守るとともに、管内の観光スポットで安心して楽しんでいただけるよう、ハード・ソフト両面から土砂災害対策を積極的に進めていきます。



白岩川水系中谷川 被災状況

後進に告ぐ ―ことなど持ち合わせていない私の砂防の思い出など―

武蔵 正信



起：砂防課から執筆依頼の電話あり

「ああ、俺も砂防課におった時に先輩たちにお願いしとったな」ということもあって「わかったよ」と返事しながら、と同時に「いやや、後進に告ぐなんて俺なんかに言えることないわ。書けることないわ。」と心の中でつぶやきながら、頭の中で考えをぐるぐると回してみましたが、もはやかなり委縮してしまった脳みそが頭の中で「カラン、カラン」と音を立てるばかりです。

承：告げるなんてことはできないがとりとめなく書ける思い出あり

そこで表題のとおりです。「後進に告ぐことなど持ち合わせていない私の砂防の思い出など」ということで、県庁生活35年の中で砂防にかかわった6年間のことから「つれづれなるままによしなしごとをかきつく」ことといたします。あしからず。

転1：福野土木事務所砂防係へ

昭和58年4月に新採で最初に配属されたのは福野土木事務所の砂防係（現砺波土木センター砂防班）でした。

当時は仕事のほとんどが職員の直営による作業で行われていました。新規箇所を選定にあたっては、土石流危険渓流を落とした管内図と既設の砂防施設の配置状況を示した資料をもとにくつつかの候補箇所を図上で選定。それから現地の実地踏査。南砺市合併前の利賀村方面、平村方面、上平村方面などと幾日かに分けて奥深い山々の渓流を踏査しました。複数の職員でグループになって朝出発夕方帰庁と一日がかりでした。

候補箇所の調査を終え箇所が決まれば現地の測量です。昔は測量作業も直営とのことでしたが、私の入った頃は簡単なものは直営でしたが、多くの測量作業は既に委託でした。

次に設計です。これは直営による作業でした。設計要領、基準書、技術図書などのほか先輩たちからいろいろなノウハウを教してもらいながら、電卓をたたいて計算し、図面を描いていました。

積算も3年間のうちに手計算から電算化されましたが、その電算システムといったら今の時代からすると信じられない内容、レベルのものでしたが、そういう時代だったんですね。今後はAIとか導入されたりして「この流域の砂防どうする？」のひとことを発するだけで、資料収集、箇所選定、計画策定、調査、測量、設計、積算、入札、契約などなど、すべてをあっという間に……、まっさかあ!?

工事が発注されたら現場監督です。ここからは当時と今とそんなに変わりはないと思いますが、全然違うのが一つ。コンクリートのテストピースつづしです。生コン屋さんでの試験もありましたが、現場代理人が現場で養生したテストピースを1週2週4週とかに3本づつ事務所に持ち込み、職員が事務所の圧縮機でつぶして強度の確認をしていました。もう使われなくなってすいぶん経つと思いますが、今も砺波土木センターのどこかに圧縮機があるんだろうと思います。

転2：砂防課へ

さて、福野土木で3年間を過ごした後しばらく砂防から離れておりましたが、平成20年4月に砂防課に配属されました。地すべり、急傾斜、砂防と主な事業は営々着々と続けられておりましたが、時代の変化とともに考え方も大きく変化しておりました。

何よりも一番大きな変化として感じたのが、ソフト対策の大々的な展開でした。「土砂災害防止法（正式名称：土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律）」の公布、施行を受けて、県内でも基礎調査なるものが盛んに行われていました。基礎調査、警戒区域の指定、特別警戒区域の指定、レッ

ド、イエロー、地元説明、関係部署との調整、警戒避難体制などなど、考えただけでも、聞いただけでも目が回りそうでした。

そして立山砂防の世界文化遺産登録を目指す様々な活動。なんじゃこれ、本気かよ。という感じでしたが、すごくみんなマジで、既に膨大な資料が作成、整理されているにもかかわらず、さらにもっともっとと上を目指して打ち込んでいました。

でも、でもですね。これら大変な業務にふさわしい者たちが砂防課に集められていましたね。土砂災害防止法、世界文化遺産登録などなど、担当者たちの仕事ぶりを見ていると本当に頭が下がるものがありました。そして何よりも誰よりも、課長がその力を、能力をいかに発揮されていました。さすがです。私はたまに氷見市役所へも顔を出しています。

転3：H20南砺豪雨災害被災状況の調査へ

砂防課に配属された年の夏、南砺地方で大変な豪雨災害が発生しました。旧福光町とお隣の金沢市を中心に7月28日の未明から降った雨は、時間最大110ミリ以上、3時間余りで220ミリ以上だったと記憶していますが、違っていたらごめんなさい。

災害発生後、被災状況把握のため現地調査を実施。最もひどかった城端地域と福光地域を中心に回り資料収集してきました。そこで見たのが小矢部川水系太谷川。そこには新採の時に担当した砂防堰堤がありました。大量の流木が大激流となって流れ下り、下流の集落および水田には数えきれないくらいの丸太がゴロゴロ。上流部では完成したばかりの治山施設がメチャクチャに破壊されていました。

でも、その大災害の真ただ中にあつた「私の砂防堰堤」はしっかりとありました。23年ぶりの再会でした。見ると袖部をも大きく乗り越えた土石流の痕跡と無数の流木が当たって行った痕跡がありました。あの大激流の中にあつて、その背中に貯えられるだけの土砂と流木を背負って、川底で踏ん張っていたんだなと思ったとたんに、感動のあまり涙がどっと溢れ出しました。調査に同行した職員たちに背を向けてこっそりと涙を拭きました。

その後、平成27年に3度目の砺波土木センター勤務になった時、もう一度「私の砂防堰堤」を見に行きました。本堤、袖部ともに補強され、嵩上げされていました。そして当初の銘板と新しい銘板、2枚の銘板がすごく輝いて見えました。

結：起承転結の結として

ここまで書いてきた起・承・転1・転2・転3とは何の脈絡もなく結を書きます。

その前に、はっきりと申し上げておきますが、以下に記すことは私が実際に実施してきたことではありません。よくできた数多くの先輩たちの姿をいろいろと見てきた結果として、たまたま私が、ここで「後進に告ぐ」ことです。

それは喜ばれる仕事をしてほしいということです。

そのためには、何事も懇切丁寧、誠実にやることです。現地の調査、地元との交渉、現場の把握、測量、設計、施工のどの段階においても関係する受注者、周りの先輩、同僚、部下職員との良きコミュニケーション、これらがなければ良い仕事になりませんし、結果として喜ばれる仕事になりません。

私はいろんな現場が完成した時に、地元の人たちが心の底から喜んでるのが本当にうれしかった。堰堤ができてこれで村も安全や。裏山の崖が整備されて空が広がった。朝から家にお日様が当たるようになって本当にありがたいなどなど。

以上、いろいろと書いてきましたが、今しみじみと思います。「ただ春の夜の夢のごとし、ひとえに風の前の塵に同じ」

令和5年度富山県治水砂防協会通常総会の開催

令和5年8月9日、富山県治水砂防協会の令和5年度通常総会が、富山県民会館で開催されました。

議事では令和4年度の事業報告・収支決算報告、令和5年度の事業計画・収支予算について審議の結果、すべて承認されました。

また、砂防講演会において、国土交通省砂防部の草野部長から「『いのち』と『くらし』と『みどり』を守る砂防」、(一社)全国治水砂防協会の大野理事長から「土砂災害対策の新たな課題-流木による被害と対策-」と題した講演のほか、国土交通省立山砂防事務所の石田所長、黒部河川事務所の湯原所長、神通川水系砂防事務所の石井所長、土木研究所雪崩・地すべり研究センターの吉柳上席研究員センター長、から各事務所及び研究所の「事業概要」等についてご説明をいただきました。



田中会長による挨拶



砂防講演会 (国土交通省 草野砂防部長)



砂防講演会 ((一社)全国治水砂防協会 大野理事長)

富山県治水砂防協会 研修会等の開催・参加

富山県治水砂防協会では、協会会員に対して砂防事業の認識と理解を深めるため、研修会等の開催や参加促進を行っています。

○令和5年8月4日(金)「第10回土砂災害実務者講習会」

場所：砂防会館別館

(一社)全国治水砂防協会開催の講習会を計8名が受講

(参加市町：富山市、高岡市、立山町)

○令和5年10月6日(金)「立山砂防現地視察」

場所：立山カルデラ内

直轄砂防事業の現地視察を開催、計18名に参加いただき、重要文化財の白岩砂防堰堤や立山温泉跡地、多枝原平展望台等を巡る行程で、立山砂防事務所の方からわかりやすくご説明をいただきました。

(参加市町：富山市、高岡市、魚津市、氷見市、滑川市、立山町)



白岩砂防堰堤にて



多枝原平展望台にて



立山温泉跡地にて

「全国治水砂防促進大会」が開催される

令和5年11月16日(木)、砂防会館別館シェンバツハ・サポー「利根」において、「全国治水砂防促進大会」が開催されました。富山県からも田中幹夫 富山県治水砂防協会会長(南砺市長)をはじめ9名の市町村長等が出席しました(首長参加：滑川市長、南砺市長、舟橋村長、上市町長、立山町長、入善町長)。また、今年度作製した協会旗につきましても、今回大会で初めて使用させていただきました。

大会では、森山裕 全国治水砂防協会会長からの会長挨拶、堂故茂 国土交通副大臣からの来賓祝辞、国土交通省 草野砂防部長より「『いのち』と『くらし』と『みどり』を守る砂防」と題した講演などがあり、最後に砂防事業促進の大会提言について説明がなされ、満場一致で採択されました。

大会後には、県選出国會議員へ要望活動を行いました。



森山会長 (会長挨拶)



堂故 国土交通副大臣 (来賓祝辞)



草野 国土交通省砂防部長 (講演)

富山県議会砂防事業促進議員連盟の活動

富山県議会砂防事業促進議員連盟（会長：中川忠昭議員、会員32名）では、7月12、13日の豪雨後の28日に、南砺市砂子谷地区の被災箇所及び小矢部市後谷地区の砂防施設整備箇所の現地視察を行いました。

また、9月14日には勉強会を開催し、6、7月の豪雨災害への対応状況、ハード・ソフト両面からの土砂災害対策をはじめとした県の取組みについて理解を深めました。



南砺市砂子谷地区被災箇所：がけ崩れ



小矢部市後谷（2）地区砂防施設整備箇所：砂防堰堤（土石流対策）、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策予算を活用



勉強会の様子（講師：林県土木部参事・砂防課長）

全国治水砂防協会静岡県支部の富山県内砂防事業の視察

8月24～26日に全国治水砂防協会静岡県支部の富山県内砂防事業の視察があり、須藤富士宮市長を代表に13名の首長、静岡県の行政関係者等の計21名の参加がありました。24日には県の砂防事業である池川通常砂防事業、見座・相倉地区地すべり対策事業（ともに南砺市）を視察され、25日には常願寺川水系直轄砂防事業（立山砂防事務所）を視察されました。自然環境や住まい方の異なる他県の土砂災害対策の取り組み、日本を代表する立山砂防を視察することができ、砂防について学ぶ充実した行程であったとのことでした。

（白岩砂防堰堤の視察に係る写真提供：国土交通省立山砂防事務所）



池川通常砂防事業の視察



立山砂防事務所による白岩砂防堰堤の説明



白岩砂防堰堤の視察

砂防関係団体に知事感謝状が授与！

令和5年12月21日に「一般社団法人斜面防災対策技術協会富山支部」（田中洋一郎 支部長）および「NPO法人富山県砂防ボランティア協会」（南保仁士 協会長）が富山県知事から感謝状を授与されました。

令和5年6、7月の豪雨災害において被災箇所の早期復旧のため現地調査等に尽力したことに対し表彰されたものです。

併せて、（一社）富山県建設業協会、（一社）富山県測量設計業協会、（一社）建設コンサルタンツ協会にも感謝状が授与されました。



新田知事と田中支部長



新田知事と南保協会長

出前県庁しごと談義(富山北部高校)の開催

令和5年8月29日(火)、富山北部高校の1、2年生を対象に土砂災害対策についての講義を行いました。

富山北部高校では、生徒自らが県のさまざまな施策の中からテーマを選択し総合探究の授業に活用しています。本年6月から7月にかけて豪雨災害が発生したこともあってか、土砂災害対策に関心を寄せた生徒9名に対し、土砂災害の特徴や土砂災害警戒情報など避難体制について約1時間の講義を行いました。

受講後の生徒のアンケートには、「土砂災害の危険性が理解できた」、「家族と避難場所やハザードマップを確認したい」などの声が寄せられました。

土砂災害や警戒避難体制についての理解がより一層広まるよう、引き続き取り組んでいきたいと思えます。



富山県総合防災訓練及び市町総合防災訓練への参加

砂防課では、県民の土砂災害に対する防災意識の向上を図るため、富山県総合防災訓練及び市町総合防災訓練に参加し、砂防ボランティア協会と共同で土砂災害に関する展示を実施しております。

今年度は富山県総合防災訓練が、8月27日(日)に高岡市の高岡テクノドームにて開催され、土砂災害に関するパネル展示及びミニ講座を行いました。訓練に参加された地区住民をはじめ、新田知事もブースの見学をされました。

また、9月から11月にかけて氷見市、魚津市、南砺市、立山町で開催された市町総合防災訓練に参加し、展示を実施しました。

今年は6月から7月の大雨の影響もあったのか参加者の関心が高く、多くの方が熱心に見学されていました。



土砂災害に関するミニ講座
(R5.8.27 県総合防災訓練)



パネル展示
(R5.9.3 氷見市総合防災訓練)



パネル展示
(R5.10.29 南砺市総合防災訓練)



土砂災害に関するミニ講座
(R5.11.11 立山町総合防災訓練)

「防災講演会in黒部市」の開催

令和5年11月18日(土)に、砂防防災講演会実行委員会と黒部市の主催で黒部市国際文化センター「コラーレ」において「防災講演会in黒部市」が開催されました。(後援:国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所、黒部河川事務所、富山県土木部砂防課)

基調講演では、国土交通省国土技術政策総合研究所土砂災害研究部の田村毅部長(前国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所長)から、「近年の土砂災害の実態と砂防行政・研究の動向」と題して、土砂災害に関する最新の研究テーマなどが紹介されました。

また、富山県内における土砂災害の発生状況について、県砂防課の林参事から本年6月~7月にかけての大雨災害を中心に報告がありました。

会場のホワイエでは、防災に関するパネル展示も行われ、国や県の砂防事業の紹介のほか、富山県防災士会様のブースも充実しており地域の防災意識の向上が図られるよう工夫されていました。



ホワイエでのパネル展示



田村 国土技術政策総合研究所土砂災害研究部長



林 県土木部参事・砂防課長

開館25周年 「立山カルデラ砂防博物館」

立山カルデラ砂防博物館は、平成10年6月30日の開館より今年度で開館25周年を迎えました。

立山の大自然や、立山カルデラ内で明治39年に着手以来、長年にわたり行われてきた砂防事業について紹介しています。

富山地方鉄道「立山駅」から徒歩1分の場所に位置しておりますので、標高3000m級の北アルプスを貫く雲上山岳観光ルート「立山黒部アルペンルート」や、日本一の落差(350m)を誇る大瀑布「称名滝」の観光などにお越しの際にも、是非お立ち寄りください。



立山カルデラ砂防博物館（外観）



立山カルデラ砂防博物館（R5年度企画展）

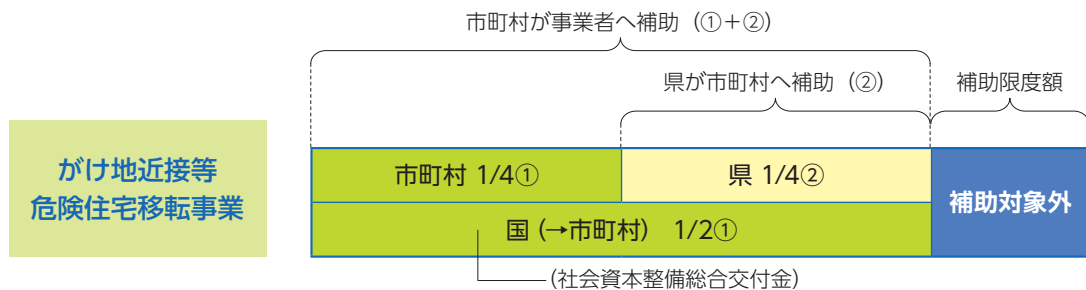


立山カルデラ砂防博物館
（S A B O展示室：国土交通省立山砂防事務所）

がけ地近接等危険住宅移転事業について

富山県では、土砂災害特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域内にある、既存不適格住宅を対象に、除却費や代替住宅の建設等に要する資金の借入金利子について補助する制度があります。

まずは、制度について、皆様方に知っていただくとともに、区域外への移転を希望される住宅の所有者の方から相談があれば、所管する富山県建築住宅課建築指導係まで、制度の詳細についてお問い合わせください。



主な砂防関係活動広報・報道等実績 [R5.4~12] (富山県治水砂防協会しらべ)

(新聞等)

OR5.5.25富山新聞「ホンジュラス共和国行政職員斜面災害対策に理解、魚津の現場視察」、OR5.5.29富山新聞他1社「立山砂防世界遺産の追い風に来月1日富山で全国大会」、OR5.5.29建設通信新聞「立山の砂防歴史を継承・発信し続ける」、OR5.6.2北日本新聞他1社「砂防の役割に理解富山土砂災害防止全国の集い」、OR5.6.28富山新聞他1社「第65次南極観測隊員に丹保氏(立山カルデラ砂防博物館)」、OR5.7.29北日本新聞他1社「県議会砂防議連大雨被害の現場を視察」、OR5.8.1富山新聞「南砺・砂子谷の土砂災害復旧技術専門家が調査」、OR5.9.26北日本新聞「白岩砂防堰堤視察歩行会で落差日本一体感(全国治水砂防協会立山支部)」、OR5.9.28北陸中日新聞「砂防の大切さ分かった富山の児童カルデラ博物館見学(富山法人会)」、OR5.10.4北日本新聞「立山砂防の「原点」資料発見蒲亨特別展(立山カルデラ砂防博物館)」、OR5.10.20日経XTECH「インフラツーリズムランキング第3位に「立山砂防」」、OR5.10.22北日本新聞他2社「世界遺産への課題議論立山砂防シンポで研究者ら」、OR5.10.25富山新聞「コンボ共和国・モンテネグロ国行政職員が富山県内で斜面災害対策研修」、OR5.11.17北日本新聞「クマ侵入防止にガラスドア装飾(立山カルデラ砂防博物館)」、OR5.12.3朝日新聞「年間公募枠780人の狭き門、あこがれの秘境路線立山砂防トロッコ」、OR5.12.17北日本新聞「立山砂防国際シンポジウム砂防施設は人類の“傑作”」

(テレビ)

OR5.6.14NHKニュース富山人「クイズで楽しく学ぶ!土砂災害への備え」、OR5.7CATV県政番組「とやまトピックス(土砂災害防止「全国の集い」in富山)」、OR5.7.31チューリップテレビ他1社「土砂崩れの南砺市の現場災害の専門家が視察」、OR5.8.2富山テレビ「魚津・入善・黒部警察署合同で大雨による土砂災害を想定し対応訓練」、OR5.9.27NHK「小学生が土砂災害の仕組みや砂防施設の役割学ぶ(富山法人会)」、OR5.10.18NHK「クマに遭遇したら… 専門家「身守る姿勢を(立山カルデラ砂防博物館白石学芸員)」、OR5.12.15NHK「[写真でみる立山の地形]展立山カルデラ砂防博物館で開催」

(SNS)

○富山県公式X[フォロー]数約44,000人(R5.4.26投稿土砂災害防止「全国の集い」in富山参加者募集、R5.5.26投稿立山カルデラ砂防体験学習会(個人コース)参加者募集、R5.5.31投稿立山カルデラ砂防体験学習会(団体コース)参加者募集、R5.6.1投稿「土砂災害防止月間」、R5.6.12投稿立山砂防ユースプログラム参加者募集、R5.12.1投稿「雪崩防災週間」)、○富山県立立山カルデラ砂防博物館公式X(2019年6月の開設以来、2023年12月までの間に約1,100件の投稿実施。(年平均約250件投稿))、○富山県土木部公式Instagram「いいね!とやまの土木(富山県土木部)」(R5.7.19投稿「富山県立大学学生が砂防関係施設の現場を見学!」、R5.12.1投稿「雪崩防災週間」)

(イベント等)

OR5.6.1~2土砂災害防止「全国の集い」in富山(富山国際会議場等)、OR5.9.26全国治水砂防協会立山支部白岩堰堤視察歩行会、OR5.9.30「ミライを体感!けんせつ×テックフェス2023」(富山駅イベントスペース)、OR5.10.21「世界遺産登録推進シンポジウム2023立山砂防国際シンポジウム」(富山国際会議場)、○立山カルデラ砂防博物館企画展等[「大正昭和の土木技術者蒲亨」展他多数]

富山県 立山カルデラ砂防博物館ニュース

「立山や立山カルデラの自然や歴史、そこで行われている砂防」をテーマに様々な企画、展示を行っています。

★申し込み、詳細については博物館までお電話ください。 TEL. 076-481-1363 (学芸課)

◆今後のイベント案内

収藏品展「富山のいきもの」(観覧料：無料) 開催期間：令和6年2月10日(土)～3月31日(日)

富山にくらす鳥や獣のはく製、触れる毛皮などの標本を展示します。

公募写真展「レンズが見た立山・立山カルデラ ー大地と人の記憶ー」(観覧料：無料)

開催期間：令和6年3月2日(土)～4月7日(日)

立山や立山カルデラ、常願寺川の大地や人の営みをテーマにした作品を紹介します。

立山カルデラ砂防体験学習会(参加者負担金有り) 開催期間：令和6年7月～10月まで(予定)

※博物館ホームページまたは県施設・市町村役場等に配布する「応募のてびき」をご覧ください。(5月中旬頃より公開・配布予定)

◆令和5年度活動報告

特別展「春の立山 雪の壁のひみつ」

開催期間：令和5年4月14日(金)～5月21日(日)

立山黒部アルペンルートの開通に合わせ、春の立山の風物詩「雪の大谷・雪の壁」についての特別展を博物館エントランスホールで開催しました。1998年から2023年まで過去26年間の雪の壁の高さのグラフ、雪の壁の作り方、どうして雪の壁では雪が多いのかについて壁面パネルで紹介しました。また、雪の大谷は2000年まで1車線分のみ除雪されていて、時間を決めて車を通行止めにして、見学していました。雪の大谷・雪の壁今昔コーナーと称して1998年ごろと現在の雪の大谷の写真を展示したところ、「昔はこうだった」と懐かしそうに写真に見入っている高齢の来館者もいました。



土砂災害防止月間特別展「ハザードマップ」

開催期間：令和5年5月27日(土)～7月2日(日)

土砂災害防止月間にあわせてハザードマップの特別展を開催しました。県内の市町村が作成した水害、土砂災害、津波、火山の各種ハザードマップ、国土地理院が作成した富山県内の都市圏活断層図と治水地形分類図を展示しました。都市圏活断層図は縮尺1:25000で幅4mと大きく印刷し企画展示室の壁一面に設置しました。自分の住んでいる場所に活断層が通っているのか一目瞭然で、熱心に見ていく来館者が大勢いました。高岡古城公園付近にのびている高岡断層の存在をはじめて知って高岡の市街地にも活断層があることに驚いている来館者もいました。



岩橋崇至写真展「立山黒部」

開催期間：4月14日(金)～5月21日(日)



国内及び世界各国の山々や自然、遺跡などの撮影を行い国内外で展覧会を開催するなど日本を代表する山岳写真家 岩橋崇至氏の写真展を開催しました。

2022年に逝去された岩橋氏は富山とも縁が深く、富山開催での写真展は本展で21回目を数えます。

今回岩橋氏が撮影した数ある写真の中から立山周辺の・峰・渓・花をとらえた作品約30点を展示しました。エントランスホールには縦5m、横1mと迫力ある大型作品7点を展示し、来館者の皆さんからは感動の声が上がりました。また、企画展示室内には季節の花々を写した組写真、また立山カルデラ内にある松尾峠のミズバショウなどの大型写真を展示しました。

ダイナミックな作品の数々から、大自然が織りなす豊かな表情を感じていただけたのではないのでしょうか。

企画展「歪み動く大地」

開催期間：令和5年7月22日(土)～9月24日(日)

大地に動くわすかな歪みは長い時間を経て飛騨山脈や呉羽山丘陵など富山県民に馴染み深い地形をつくりあげ、独特の風土とともに地震や土砂災害など災害をもたらしてきました。企画展ではそうした馴染み深い地形やそこに住む人々の生活の中に見え隠れする歪み動く大地の営みを地形模型やボーリングマシンなどの観測機材、ドローンによる変動地形の360度カメラ映像などで紹介しました。ドローンの360度カメラ映像はまさに空を飛んでいるような気分を味わうことができ、来館者に非常に好評でした。関連行事として8月20日に講演会を開催、展示解説も8月11日、9月9日、9月24日に行い、多数の方に参加していただきました。



立山カルデラ砂防博物館の開館案内

開館時間：通常開館9:30～17:00(入館は16:30まで) 休館日：月曜日(祝日除く)、祝日の翌日(土・日曜日除く)、年末・年始(12/28～1/4)
※開館時間、休館日は博物館HPにて最新情報をご確認ください。(早朝開館、臨時開館・閉館等あり) 観覧料：立山カルデラ展示室・大型映像の観覧料として一般400円(大学生以下、70歳以上無料)、企画展示室・SABO展示室は無料 所在地：〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68 TEL.076-481-1160/FAX.076-482-9100 <http://www.tatecal.or.jp/tatecal/index.html>